

授業科目

発達障害作業療法評価学

担当教員名 永井 洋一	対象学年	2	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○	○	◎

授業の概要

広義の発達障害の作業療法評価を実施するには幅広い知識と子どもの特徴の理解が必要であり、さらに子どもの環境に大きな影響を与える家族に関する理解も必要である。本科目では、姿勢・運動とその基礎となる反射、微細運動、知覚・認知、ADLの領域における評価の基礎知識を学ぶと共に、臨床現場でよく利用される検査の一部についても、評価対象、検査の特徴、一部の手技について学ぶ。

授業の目的

発達障害に対する作業療法評価を実施するために必要な基礎知識を身につける

学習目標

1. 発達障害に対する作業療法における評価の特徴を説明できる。
2. 姿勢・運動の発達とその評価方法を説明できる。
3. 微細運動の発達とその評価方法を説明できる。
4. 知覚・認知の発達とその評価方法を説明できる。
5. 日常生活活動・適応行動(遊びを含む)の発達とその評価方法を説明できる。
6. 保護者との面接・児童の観察方法について説明できる。
7. 発達評価のためのスクリーニングと領域別評価の目的を説明できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	発達障害の作業療法評価総論	講義	永井 洋一
2	運動と姿勢の発達とその評価	〃 (課外時間中にビデオを視聴してレポートを作成する)	永井 洋一
3	姿勢反射・反応の評価～原始反射の見方	講義, 実習 (人形を利用)	永井 洋一
4	目と手の協調性の発達とその評価	〃	永井 洋一
5	知覚・認知の発達とその評価	〃	永井 洋一
6	日常生活活動・適応行動の発達とその評価 [遊びを含む]	〃	永井 洋一
7	保護者との面接・児童の観察方法	〃	永井 洋一
8	発達評価の種類とその使い分けについて	講義・実習	永井 洋一

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	作業療法学全書第3巻 作業療法評価学：第3版	日本作業療法士協会 (編)	協同医書出版社	2008年	3,800円+税	
参考書	発達障害と作業療法：実践編 (第2版)	岩崎清隆、岸本光夫	三輪書店	2015年	3,800円+税	
	PTマニュアル 小児の理学療法	河村光俊	医歯薬出版	2002年	3,990円+税	
その他の資料	授業中に配布する					

評価方法

授業態度 (Minute Paperを含む) : 20%程度
レポート課題:30%程度 期末試験 : 50%程度

履修上の留意点

小児科学及び人間発達学 (2年前期) の単位を取得していなければならない。
「授業態度」には、授業中の聴講態度, Minute Paperへの質問や感想の記入など授業内容への積極的な参加を含む。

オフィスアワー・連絡先

原則として火, 水, 木曜日の12 : 30~13 : 10 Q307, nagai@nuhw.ac.jp